

(2) 救急需要への対応力強化

① 救急車5台運用による輻輳（ふくそう）率の低下

少子高齢化などにより増え続ける救急需要に対応するため、広域化前に大東市3台、四條畷市2台それぞれ運用していた救急車を、広域化後は5台を統制して運用することで、輻輳率（救急事案の重複により常時運用している救急車に対応できなくなる割合）を低下させることができ、同時に複数発生する救急事案に対応することが可能となっています。これにより予備救急車を運用する件数が激減しています。

救急輻輳（予備救急車の出場）

（件）

年度		全出場件数	予備救急車 出場件数	輻輳率
平成25年度	大東市	6,301	72	1.14%
	四條畷市	2,608	55	2.11%
	合計	8,909	127	1.43%
平成26年度		9,127	6	0.07%
平成27年度		9,239	5	0.05%
平成28年度		9,652	24	0.25%



《シミュレーション訓練の様子》

② 救急隊員のスキルアップ

救急隊が全隊専任化されたことで、消防隊等との連携訓練や全救急隊を対象としたシミュレーション訓練を実施するなど、これまで以上に充実した訓練が可能となり、救急隊員のスキルアップが図れています。また、救急活動で中心的な役割を担う救急救命士の養成や救命処置拡大に伴う資格取得など、計画的な派遣が継続して行えるようになり、救急業務の高度化に繋がっています。

救急出場件数の推移

